

教育  
相談室

# カウンセラーの窓から

## 夏休みこそ、お子さんの 良さに気付くチャンス！

昨年、夏休みを前に、小学五年生のお母さんからこんな相談がありました。

夏休みはうんざりです。親は仕事なのに、朝はなかなか起きない、何もかもものんびりしている、ゲームばかりで宿題をしている様子もあまりない…。毎年ついつい苛立つて怒鳴ってしまいます。最近は反抗期に入ったのか、何を言っても伝わらず困っています。

お話を聴きしたあと、「発想を転換して、夏休みはお子さんの良さを発見できるチャンスにしましょう。キーワードは『二日三分会話』です。』と提案しました。具体的には次のお願いをしました。

### プラスの「私メッセージ」を 伝えましょう

疲れて帰ってきたときに、ユーチューブを見たり友達と通信しながらゲームをしたりしている様子を見て、「今日は何時間ゲームしていたの!」と、つい言ってしまうがちですが、このような言葉かけは逆効果ですよ。

ぜひ、「ゲームクリアできたんだ。お母さんはその笑顔が嬉しいよ。」などと、ちよつとしたいいことを探して付け加えて「私メッセージ」でスタートしてみてください。会話が進みますよ。

この日々の会話の積み重ねだけで、お子さんは親に愛されていることを実感し、自己肯定感が高まります。

### お子さんの目を見て話を 聴くことに専念しましょう

一日中のんびり過ごしていたよに見えるお子さんですが、実は部活動や児童クラブや友達との遊びなど、ふだんの学校生活とは違う環境の中でかなり疲れているはず。トラブルもあったかもしれない。嬉しいことも。お子さんの素直な気持ちを親に聴いてもえられたことが、翌日もがんばろうという勇気と元気を与えます。

ぜひ、「ただ聴いてほしい」というお子さんの気持ちに寄り添って、「大変だったね」「すごいね」「おんなじこと思ったよ。」などという言

葉をかけて聴いてあげてください。

「三分間だけ怒りを抑えて、話を聴くだけでいいんですか。」と半信半疑で帰られました。二学期が始まり、「いらいらせず待たせて子どもって育つんですね。」「たくさんの人と出会っているんだね。毎日話を聴くのが楽しみだよ。そう思えるようになり、子どもの良さをたくさん見つけることができます。一番楽しい夏休みになりました。」そう言って下さったお母さんの笑顔が素敵でした。

(Y・Y)

**ネット対策  
5つのポイント**

- ⓪ 時間と場所を決めて使おう。
- ⓪ 家族や友達とルールを決めよう。
- ⓪ 誤解のない言葉でやりとりしよう。
- ⓪ 人の嫌がることや悪口は書き込まない。
- ⓪ ネットで知り合った人とは会わない。

安全のために、必ずフィルタリングを!

青少年健全育成鯖江市民会議

「はぐみ」は、家庭のあり方についてみなさんと一緒に考えていきたいと発刊しております。子育てのヒントになればと思います。ご意見をお聞かせください。

鯖江市教育委員会生涯学習・スポーツ課  
TEL 53-2256  
〒916-8666  
鯖江市西山町 13-1

# はぐみ

家庭教育を考えるシリーズ

発行  
青少年健全育成鯖江市民会議  
鯖江市教育委員会  
鯖江市社会教育委員会  
協力  
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

55号

## 人のかかありが 子どもを育てる



『どうぶつ列車しゅっぱーつ!』立待保育所



『ザリガニ!もうすぐ釣れそう!』片上幼稚園



『地域・家庭との連携 体育大会・やんしきおどり』進徳小学校



『食の伝統文化に触れる』東陽中学校

「何をさせても遅いので、思わず大きな声を出してしまう」  
 「○○ちゃん是可以るのに、何でうちの子はできないの?」  
 「ゲームばかりしていて、何を考えているのかさっぱり分からない」・・・  
 ・「子育て」に、イライラや不安、疑問はつきものです。  
 ちょっと肩の力を抜いて、いっしょに考えてみませんか?

# 子どもが自ら育っていく

ちから

# 力をつけけるきっかけを



## ◎育ちを促す言葉があります

子どもを取り巻く環境は、急激なスピードで変化しています。ソーシャルメディアがコミュニケーション手段の役割を果たす一方で、実際に顔を合わせての会話が減っているのも事実です。そこで、子どものそばで一緒に何かに取り組みながら、

- 子どもを見守り
- 受け止め（先回りはしない）
- 言葉で返す

に取り組んでみてはどうでしょうか。

一緒に畑で汗を流しながら、「手伝ってくれたから助かったよ。ありがとう。・・・自分は役に立っているという自信につながります。」

なわとびのこつをつかんだ子に、「あきらめずにがんばったから、跳べたね。・・・次への挑戦意欲につながります。」

## ◎子ども集団が育ちを広げます

同年齢でまたは異年齢で群れることを通して、試行錯誤や失敗をくり返しながら、子どもは成長していきます。

学校の授業や部活動だけでなく、児童館、公民館、スポーツ少年団などの活動の中で、子どもは社会性や協調性を身につけていきます。



親には話せないことも、おばあちゃんには意外に話すことができたりします。

## ◎チームで子どもの育ちをつなぎます

親や友達だけでなく、祖父母とのゆるやかな関わり、地域の大人との少し距離のある斜めの関わりが、子どもの育ちをつなぎます。

祭りの準備をしながら、「なかなかしつかりしているな。」と、声をかけられたり、「やっぱり大人はすごい。」と思ったり。

「子育て」にマニュアルはありません。子どもが育つ時間も過程も状況も一人一人違います。子どもが自ら育つ力を信じて、寄り添い、声をかけ、時には周囲の手を借りながら、育ちを引き出すきっかけをつくるのが大人の役割かもしれません。

## 絹摘

### 「先生、言葉が一つ増えました」

ある保育園の先生からこんな話をお聞きしました。

いつもにこにこ顔で子どもに接しているお母さんだそう。そのお母さんは、我が子のことで保育園の先生に連絡帳やお迎えの場で、例えば「今日は、「楽しい」が「楽しいね」というようになりました。「ね」が一つ増えました。「昨日は、家でにこっとしながら挨拶ができました。」等と保育士さんに伝えてくれるそうです。

お母さんは、小さな成長が一つでも見れば言葉にして、まわりの人に伝えるそうです。子どもの少しの変化も「見ている」ということです。子どもからすると、いつも見守られているという事です。子どもはお母さんの眼差しを感じて、のびのびとしています。それがお母さんの笑顔を増やすこととなります。

子どもへの関わり方は難しいものです。でもこのお母さんのように、あたりまえと思われる中でも、小さな変化を探し、子どもに返したり、夫婦同士、祖父母、保育園の先生など周りの大人に伝えたりしていくと、子どもは変化していくようです。「見る」「見守る」「伝える」ということの大切を感じさせてくれる話です。

家族で子どもを育てる、地域で子どもを育てると言われています。「地域の行事に参加したら「楽しい」といって帰ってきました。」とか「近所の方に褒めてもらい、帰ってから喜んで私に話してくれました。」というように、周囲の方に関わってもらった話をお世話になった相手に伝えていくことは、子どもを育てる環境づくりにつながります。相手への言葉かけが「地域での子育て支援」になります。温かい子育て支援やチーム支援になります。是非、試してみてくださいいかがでしょうか。

※「絹摘」とは「こゆへ」という意味。しほくせ集まれば、やがて大河となる。この願いを込めて。